

令和5年度 学校評価報告書

Table with columns: 学校教育目標, 重点目標, 評価計画, 自己評価, 学校関係者評価, 改善計画. It contains detailed evaluation data for various school goals and activities.

◇ 評価について
・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

令和5年度 学校評価報告書

評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画	
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
総	教育課程 学習指導	特色ある教育課程の編成と実施 (質的・量的)	週指導計画案や授業参観を通じた教育課程の実施状況(時数・内容)の確認	4	○週案での授業のポイントを把握し、授業を参観し、指導助言を行った。 △子どもの思考の流れに沿って、子どもから考えを引き出す発問や課題設定などの授業作りが必要。	A	・学校の評価は妥当である。 ・教育課程評価をもとにしてきちんと評価がなされている。また、教職員の意識向上が図られ、確実な授業改善が行われている。	・次年度も校内研究をもとに、しっかり聞いて考えることができる授業づくりや子どもの考えを引き出す授業作りに努める。
		学習指導法の工夫とその改善	めあてからまとめまで、子どもが主体的に考えることができるような発問や交流場面がある授業の実施 習熟度別少人数指導の体制づくりと実践	3				
	生徒指導	配慮を要する子どもの早期発見・早期対応 問題行動等の未然防止と組織的対応 「支える」生徒指導の推進	毎月の「子どもを見つめる会」の実施と学校生活アンケートを活用した子ども実態の把握及び共通理解 生徒指導部会を中心とした組織の明確化と報告・連絡・相談の体制づくりと機能化 自己決定・自己存在感・共感的人間関係・居場所づくりを通じた自己指導能力の育成	4 3 4	○「子どもを見つめる会」では、全学年の支援が必要な子どもの把握、共通理解ができた。 △いじめ問題について、全て解決することができたが、未然防止のための更なる自己指導能力の育成が必要。	A A A		
括	保健管理	保健管理体制の充実 病気や怪我などの予防	保健管理の確実な実施と事故及び災害発生時の迅速な対応 ・緊急を要するときの全職員での組織的で早急な対応と確認	4	○毎日子どもの出席状況を朝の内に確認、欠席者に連絡を行った。また、緊急時には、素早い対応と確実に連絡、報告を行い共通理解できた。	A	・学校の評価は妥当である。 ・遅刻する子どもも多いので、出席の把握をするのも大変だと思う。 ・複数の養護教諭配置が必要ではないか。	・次年度もリーパーの活用と養護教諭との連携で毎日の子どもの出席状況の確認を確実にを行う。
	安全管理	校内の安全管理	毎月の安全点検の確実な実施と迅速な対応	4	○毎月確実に安全点検を行い、補修が必要な場所は、迅速に対応した。 ○避難訓練の時には、子どもは真面目な態度で取り組むことができた。	A	・学校の評価は妥当である。 ・定期的な点検がきちんと組織的に行われている。 ・引き渡し訓練も充実していた。	・定期的な安全点検と複数人数での確認を次年度も行う。 ・引き渡し訓練の見直しと継続を行う。
的	特別支援教育	子どもの正確な実態の把握と個に応じたきめ細やかな支援	特別支援教育校内委員会及び全体会での共通理解と個に応じた適切な指導の実施 ・特別支援学級、通常学級との交流教育の実施 ・個別の支援計画及び個別の教育指導計画の作成	4	○支援が必要だと感じた子どもについては保護者へ丁寧な説明を行い、相談の上、個に応じた支援につなげることができた。	A	・学校の評価は妥当である。 ・今後も校区内での養護教諭、SC、SSW等を含めた定期的な情報交換会を継続しながら、早期の対応を行っていくことが大切だと思う。	・特別支援教育支援員との打合せを確実にし、個に応じた支援を継続して行う。 ・中学校との情報交換会を行い対応の継続に努める。
	組織運営	校務分掌(校内組織)の明確化と機能化 会議の効率化と職員の情報共有	3部会(学力向上部、体力向上部、心の教育部)のリーダーシップが生きる管理職の支援体制の構築 共有フォルダ内のデータで提案したり、即修正。部で話し合ったことを誰でも見ることができるよう	3 4	○△3部会の取組により中核教員の育成が進んでいる。今後、更に校内OJTを推進し、中核教員の自主性や計画性等を育む必要がある。	A A	・学校評価は妥当である。 ・組織を3部会に分け、組織的な対応がなされていると思う。	・3部会のリーダーを中心に確実なPDCAサイクルの実施と成果が可視化できる取組の工夫を行う。
価	研修	校内研究テーマの取組の日常化 校外研修・自主研修への積極的参加	学習展開時に交流の場面で自分の考えを分かりやすく説明する活動を仕組む 福岡県教員育成指標に沿った年1回以上の研修への参加	4 3	○校内研究テーマに合わせて、研究授業以外でも分かりやすく説明する姿が見られた。 △職員が主体的に研修を受けるよう、管理職の声かけを更に行う。	A A	・学校評価は妥当である。 ・校内研究テーマに沿って組織的、計画的に研修が進められていると思う。	・校内研究テーマに合わせた授業実践を継続する。 ・自己のキャリアステージを意識させ、主体的に研修を受けるように促す。
	教育目標 学校評価	子どもの実態に基づいた単年度重点目標の設定 全職員による学校評価参画	重点目標の定期的な振り返り(PDCA) 年3回の教育活動評価・自己評価の実施	4 3	○重点目標については、職員だけでなく子どもにも意識させ、定期的に振り返りをさせることができた。 △評価を全職員で分析し、全教員の学校経営参画意識を高める。	A A	・学校評価は妥当である。 ・教職員だけでなく子ども達にも重点目標を意識させながら取組まれ評価がなされている事は今後の参考にした。とてもいいことだと思う。	・次年度も子どもに重点目標を定期的に振り返らせていく。 ・学校経営に参画する意識をもたせるために目標と課題を共有する場を多く設定する。
保	保護者・地域との連携	保護者・地域への情報発信	学校・学年便り等の定期的な発行と「Mボード」による情報提供 授業参観、PTA各種会合、主任児童委員会会合での情報提供	4 4	○学校・学年便り、「Mボード」により、情報を発信することができた。 ○主任児童委員の方々と毎月話し合うことで、情報を共有することができた。	A A	・学校評価は妥当である。 ・こまめな「Mボード」の配信により学校の様子がよくわかり、身近に感じた。 ・主任児童委員としての会議は、地域の子どもの知る大切な場となっている。	・学校・学年だよりやこまめな「Mボード」の配信を継続する。 ・次年度も主任児童委員との会議による地域での子どもの情報を共有する。
	保護者・地域との連携	宅峰中・近隣保育所・幼稚園との連携の充実 保護者・地域住民との連携、信頼関係づくり	宅峰中学校区小中連絡会の設定(年5回) 保育所、幼稚園等からの情報収集 地域行事への積極的な参加及び学校行事への招待	4 4	○宅峰中学校区の定期的な小中連絡会で情報共有ができた。 ○4年ぶりに行われた県境大蛇山で声かけをしたり、みなと祭りに参加したりなど地域行事に積極的に参加することができた。	A A	・学校評価は妥当である。 ・地域行事に参加することは、地域の活性化につながり、地域にとっても大切なことだと思う。	・学習発表会では、全学年の学習の成果をどの保護者にも見ていただくことができたので、今後は地域の方々への招待も検討する。
教育環境整備	教室、特別教室、運動場等の効果的活用と整備 教材・教具、図書、教育備品の整備	学校施設、設備の活用状況と整備状況の確実な把握 教材・教具、図書、教育備品の整備状況の確実な把握	4 4	○安全点検を含めて、必要な場所は素早く整備することができた。 ○算数のプリント教材など教材を揃え、活用することができた。	A A	・学校評価は妥当である。 ・校内外共にきちんと整備がなされ落ち着いた雰囲気での学習環境が作られている。 ・今後も安全点検を徹底して欲しい。	・今後も教室等の環境を整えていく。 ・タブレットドリルの活用などタブレットの利活用を行う。	

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである